

CS/2011.10.23

「政治変革をめざす市民連帯」講演会

政局を日本政治の特質から見る ～「次」「副」「補」に注目して～

〈内 容〉

- 1) 油断ならない「次」「副」「補」がつくポスト
- 2) 「官邸」とはだれか
- 3) 事務次官会議から各府省連絡会議へ
- 4) 「野田内閣は直勝内閣だ」

明治大学政治経済学部・西川伸一
 nisikawa1116@gmail.com (■→@)
<http://nishikawashin-ichi.jimdo.com/>
<http://www.kisc.meiji.ac.jp/~kokkaron/>
<http://twitter.com/azusayui>



首相官邸

野田佳彦内閣成立(2011.9.2)
 「副」が3人写っている。

1

CS/2011.10.23

1) 油断ならない「次」「副」「補」がつくポスト

野田内閣の「次」「副」「補」リスト(1)

ポスト	氏名	備考
内閣官房副長官	齋藤 勁(政務=衆・当1)	参・当2
	長浜 博行(政務=参・当1)	衆・当4
	竹歳 誠(事務)	前国交事務次官
内閣官房副長官補	佐々木豊成	大蔵省出身
	河相 周夫	外務省出身
	櫻井 幹也	運輸省出身
内閣総理大臣補佐官	末松 義規(衆・当5)	
	手塚 仁雄(衆・当3)	
	長島 昭久(衆・当3)	
	本多 平直(衆・当2)	
	水岡 俊一(参・当2)	

2

CS/2011.10.23

野田内閣の「次」「副」「補」リスト(2)

ポスト	氏名	備考
内閣総理大臣秘書官	河井 淳一(政務)	
	前田 哲(事務)	防衛庁出身
	金杉 憲治(事務)	外務省出身
	山下 史雄(事務)	警察庁出身
	太田 充(事務)	大蔵省出身
	寺澤 達也(事務)	通産省出身
	吉田 学(事務)	厚生省出身

事務次官	氏名	事務次官	氏名
内閣府	浜野 潤	厚生労働	阿曾沼慎司
総務	岡本 保	農林水産	町田 勝弘
法務	西川 克行	経済産業	安達 健祐
外務	佐々木賢一郎	国土交通	宿利 正史
財務	勝 栄二郎	環境	南川 秀樹
文部科学	清水 潔	防衛	中江 公人

3

CS/2011.10.23

2)「官邸」とはだれか



清水(2005)

小泉政権時代の官邸での打ち合わせの一コマ。古川(2005)7頁。

左から反時計回りに

上野公成・内閣官房副長官(政務・参)
 福田康夫・内閣官房長官
 小泉純一郎・内閣総理大臣
 安倍晋三・内閣官房副長官(政務・衆)
 古川貞二郎・内閣官房副長官(事務)

第一次小泉内閣および
 第一次小泉内閣第一次
 改造内閣における「官
 邸」メンバー

Cf.)第●次○○内閣第▲次改造内閣

4

CS/2011.10.23

内閣官房長官とは

内閣法第13条 内閣官房に内閣官房長官一人を置く。

2 内閣官房長官は、国务大臣をもつて充てる。

3 内閣官房長官は、内閣官房の事務を統轄し、所部の職員の服務につき、これを統督する。

☆首相の補佐＝内閣府の事務と内閣の統一性を保つための総合調整

「官房長官はよく内閣総理大臣の「女房役」とか「内閣の大番頭」と言われる。各省大臣のように自分の役所というものはなく、総理官邸の中の一室で執務している。」(後藤田、1989)

「カミソリ後藤田」

後藤田正晴

(1914-2005)



☆閣議の進行役、日に2回記者会見、「政府首脳」

☆首相の「内閣総理大臣臨時代理」(内閣法9条) 予定者第1順位

☆藤村修官房長官(衆・当6)、前あしなが育英会副会長

5

CS/2011.10.23

内閣官房副長官とは

内閣法第14条 内閣官房に、内閣官房副長官三人を置く。

2 内閣官房副長官の任免は、天皇がこれを認証する。

3 内閣官房副長官は、内閣官房長官の職務を助け、命を受けて内閣官房の事務をつかさどり、及びあらかじめ内閣官房長官の定めるところにより内閣官房長官不在の場合その職務を代行する。

政務副長官(衆参それぞれ1名ずつ)

齋藤 勁(つよし) 衆当1・参当2

2005郵政選挙で参院議員を辞任して、小泉首相と同じ選挙区で戦う→2007参院選も落選→2009総選挙比例単独・名簿下位で当選し4年ぶりに国政復帰

長浜 博行 参当1・衆当4

松下政経塾2期生→細川護熙参院議員の第一秘書→1993日本新党から初当選→2007参院選で参院議員に鞍替え→2009厚労副大臣(菅政権でも再任)



6

CS/2011.10.23

“影の首相” “官僚首座”事務副長官

竹歳誠 東大法卒、1972建設省入省
 国交事務次官から異例の「昇進」

事務方の最高責任者

「大変名誉なこと」(御厨・渡邊、1997、15頁)

旧事務次官会議を主宰

→閣議と両方に出るのはこのポストだけ



「政治家と官僚の関係である、いわゆる「政官関係」は、国レベルでは大きな注目を集める。その結節点は、事務職員の最高ポストである官房副長官(事務)であり[以下、略]」(室山・金井、2008、v 頁)

「1週間単位でいうと、月曜日と木曜日は事務次官会議があります。それはいずれも昼。その朝、事前に、事務次官会議の案件について説明を受けるし、とくにその日の案件で省庁間で揉めごとがあると、それまでに調整しなければいけませんから。..それから閣議は火曜日と金曜日です。」(御厨・渡邊、1997、189頁)

「閣議の準備、各省庁にまたがる問題の総合調整など内閣運営の全般に携わる。」(古川、2005、7頁)

7

CS/2011.10.23

旧内務省系官庁の事務次官経験者が就任

「官房副長官にはどういう役所の出身者を選ぶか..旧内務省系です。」

なぜかという、それ以外の産業官庁、事業官庁は、あまりにも民間との関係、あるいは政治との関係で、関係が深すぎるということで、政治の総合調整をやる場合、偏ったことをやっているのではないかという憶測を受けるおそれがあるからですね。その点、内務省は特殊利害との結びつきがないんです。ゼネラリストですからね。そういう経緯があって、旧内務省出身者がほとんど副長官というポストを占める。だから、警察、自治省、厚生省、労働省、こういう旧内務省系が占めることが多いんです。ところが建設省は旧内務省系であっても、偏っていると言われるおそれがありますから、その出身者はなっていないんです。

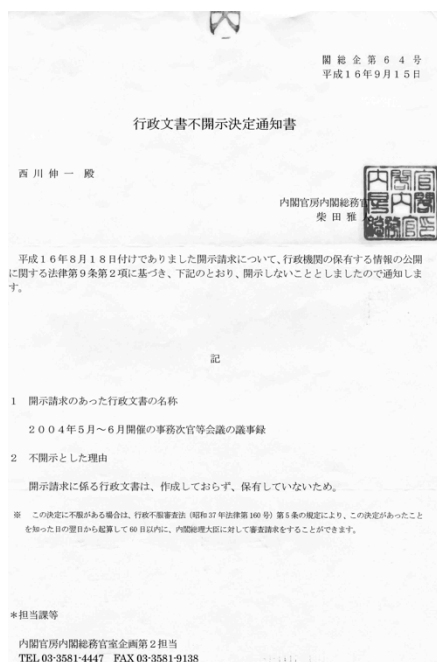
大蔵省も考えられますが、これは各省が嫌うんです。総合調整というのは人事と企画と予算でやるんですね。いちばん効いているのは予算による総合調整です。それを大蔵省にやられているわけです。そこにもってきて、人事に関与してくる官房副長官を大蔵省にやられると息がつけないということですよ。」(後藤田、1998上、283-284頁)

8

歴代官房副長官(事務)					CS/2011.10.23
首相	事務副長官	出身省庁	任	免	
田中	後藤田正晴	警察庁	1972.7.7	1973.11.25	
田中/三木	川島 広守	警察庁	1973.11.25	1976.5.25	
三木	梅本 純正	厚生省	1976.5.25	1976.12.24	
福田(赳)	道正 邦彦	労働省	1976.12.24	1978.12.7	
大平/鈴木	翁 久次郎	厚生省	1978.12.12	1982.11.27	
中曽根	藤森 昭一	厚生省	1982.11.27	1987.11.6	
竹下/宇野/海部/ 宮沢/細川/羽田/ 村山	石原 信雄	自治省	1987.11.6	1995.2.24	
村山/橋本/小渕/ 森/小泉	古川貞二郎	厚生省	1995.2.24	2003.9.22	
小泉	二橋 正弘	自治省	2003.9.22	2006.9.26	
安倍	的場 順三	大蔵省*	2006.9.26	2007.9.26	
福田(康)	二橋 正弘	自治省	2007.9.26	2008.9.24	
麻生	漆間 巖	警察庁	2008.9.24	2009.9.16	
鳩山/菅	滝野 欣弥	総務省	2009.9.16	2011.9.2	
野田	竹歳 誠	国交省*	2011.9.2	○	9

CS/2011.10.23	
「副長官は各省庁を引っ張っていく仕事で、バランスが必要。旧内務省系は公平な立場から国家全体を考える役所だというふうを考えられていたからだろう。」(古川、2005、5頁)	
3)事務次官会議から各府省連絡会議へ	
	事務副長官が実質的に主宰する事務次官会議。閣議にかける案件を最終チェックする。 2002年5月9日開催の事務次官会議の様子。古川(2005)10頁。
「民主党の菅直人さんが「次官会議を廃止して、政治家が議論すればいい」と批判していたが、これは実情を理解していない議論。次官会議は法律に根拠がないにもかかわらず、内閣制度が発足した一八八五(明治一八)年の翌年から百十九年も続いている。それは、国政運営にとって必要なものだし、実際に機能しているからだ。」古川(2005)11頁。	

CS/2011.10.23



「事務次官会議には任免権者はおらず、各省代表の横並びの会議である。すると、ある省が自分たちの省益に反すると思うような法律は、その省の事務次官が反対すれば閣議にかけられず、法案として国会に提出されることもない。つまり、すべての事務次官・・が拒否権をもっているのが、いまの事務次官会議のやり方なのだ。このため、国益よりも省益を優先し、官僚が自分の省の利益に反することは、閣議にかけられる前につぶせることになっている。」

菅直人(2009)54頁。

議事録の「不在証明」

11

CS/2011.10.23

事務次官会議の復活？

事務次官会議

法制上根拠のある会議ではない。議事録も作成されない。

閣議前日にあたる毎週月・木に開催。事務次官会議で了承された案件しか閣議にかけられない。



鳩山政権の政治主導

事務次官会議の廃止；各府省の意思決定は大臣、副大臣、政務官の政務三役会議が担う

2009.9.14「最後の事務次官会議」



2010.12 仙石官房長官が政務三役会議への事務次官陪席を要請。



「3.11」→ 2011.3.22 被災者生活支援特別対策本部の下部組織として、各省事務次官らでつくる「各府省連絡会議」を設置し、初会合を開く。



麻生内閣で最後となる事務次官会議を終え、記者会見する漆間官房副長官

12

CS/2011.10.23

2011.3.22枝野官房長官記者会見

――連絡会議設置の狙い。なぜ事務次官なのか。

「連絡会議で各省への指示が徹底されているかを事務方トップに確認し、被災者生活支援特別対策本部の活動に万全の効果を生じさせる。かつての事務次官会議とは性質は異なる。」



2011.9.7藤村官房長官記者会見

「各府省連絡会議」について「今日まではある程度震災にテーマが限定されていたが、今後は次回会議で詰めていくことになる」「連絡会議は(自民政権時代の事務次官会議のような)決定機関ではなく、官房長官のほか政務の副長官も入るので内容的に違う」

2011.9.7(金)野田政権になって初の「各府省連絡会議」を開催、司会
は竹歳誠官房副長官 ☆毎週金曜日に定例化

Cf.) 野田首相所信表明演説(2011.9.13)

「この歴史的な国難から日本を再生していくため、この国の持てる力の全てを結集しようではありませんか。閣僚は丸となって職責を果たす。官僚は専門家として持てる力を最大限に発揮する。」

13

CS/2011.10.23

4)「野田内閣は直勝(ちよっかつ)内閣だ」

参院予算委2011.9.29片山虎之助(たちあがれ日本)



野田佳彦・経歴

年月	経歴
1957.5	千葉県生まれ
1980	早大政経卒
1985	松下政経塾卒塾
1987	千葉県議初当選
1993	衆院議員初当選(日本新党)
2004.5	民主党ネクスト財務大臣(前任は藤井裕久)
2009.9	財務副大臣(財務相は藤井裕久)
2010.6	財務大臣
2011.9	首相

勝栄二郎・経歴

年月	経歴
1950	埼玉県生まれ
1975	東大法卒、大蔵省入省
2000.6	官房文書課長
2002.8	主計局次長
2006.7	総括審議官
2007.7	理財局長
2008.7	官房長
2009.7	主計局長
2010.7	事務次官

「10年に一度の大物」 14

CS/2011.10.23

「野田内閣は直勝内閣だ」

(参院予算委2011.9.29、7m-10m50sec)

片山虎之助

「財務省主導」「官房副長官人事も

増税も財務省、事務次官主導だ」

「「直角内閣」ならぬ「直勝内閣」だ」



野田首相

「特定の省の特定の誰かに洗脳されたわけではない。きっぱり申し上げたい」

「事務の官房副長官には勝栄二郎・財務事務次官と親しい竹歳誠・前国土交通事務次官が起用され、財務省から出向する首相秘書官には太田充主計局次長が充てられた。首相秘書官の経験者は「この政権は増税ができればいい。そこに向けた環境をいかにつくるかが課題」。世間受けを狙った派手な振る舞いは必要ないというわけだ。』『朝日新聞』2011.9.7

15

CS/2011.10.23

参考文献

安倍晋三(2006)『美しい国へ』文春新書。

菅直人(2009)『大臣 増補版』岩波新書。

後藤田正晴(1989)『内閣官房長官』講談社。

——(1998)『情と理』(上・下)講談社。

佐々淳行(2002)『わが上司 後藤田正晴』文春文庫。

清水真人(2005)『官邸主導』日本経済新聞社。

『政官要覧 平成23年秋号』(2011)政官要覧社。

高橋洋(2010)「内閣官房の研究—副長官補室による政策の総合調整の実態」日本行政学会編『年報行政研究』第45号。

古川貞二郎(2005)『霞が関半生記』佐賀新聞社。

御厨貴・渡邊昭夫(1997)『首相官邸の決断』中央公論社。

室山貴義・金井利之(2008)『倉敷の町並み保存と助役・室山貴義』公人社。新聞各紙。

16